

- 水稻収穫量調査について、統計値が生産現場の実感と乖離があるとの声が多かったことから、生産者の方々や生産者団体、地方自治体と意見交換を実施し、要因を把握。収穫量、作況指数などについて様々なご意見。
- このうち、**作況指数**については、**令和7年産より、近年の高温等気候変動を十分反映するとともに、収穫量全体を対比したものでないことを明確化した指標である作況単収指数に移行。**
- 近年の高温による収量への影響を反映する観点から、できるだけ直近のデータを利用することが望ましく、また、水稻は畑作物や野菜に比べて収量の年次変動が小さいため、**作況単収指数として5年中3年平均を採用。**

○作況指数から作況単収指数に移行（令和7年10月10日公表分～）

旧

～令和6年産

$$\text{作況指数} = \frac{\text{10a当たり収量}}{\text{10a当たり平年収量}} \times 100$$

(過去30年のトレンド)

収穫量全体を平年と比較したものの認識が多い

直近の収量と比較する生産者の実感とズレ

新

令和7年産～

$$\text{作況単収指数} = \frac{\text{10a当たり収量}}{\text{10a当たり平均収量}} \times 100$$

(前年産までの5年中3年平均)

収穫量全体を対比したものでないことを明確化

(参考) 近年の高温の状況（夏（6月～8月）の地域平均気温平年差）

	6月～8月の地域平均気温平年差										5年平均		令和7年夏
	平成27年	28	29	30	令和元年	2	3	4	5	6	平成27～令和元年	令和2～6年	
北日本	0.6	0.7	0.3	0.6	0.8	1.2	1.4	0.9	3.0	2.3	0.6	1.8	3.4
東日本	0.3	0.6	0.6	1.7	0.5	1.1	0.4	0.9	1.7	1.7	0.7	1.2	2.3
西日本	-0.5	0.7	0.7	1.1	0.0	0.6	0.1	0.9	0.9	1.4	0.4	0.8	1.7
沖縄・奄美	0.6	1.1	0.7	0.0	0.2	0.8	0.0	0.6	0.1	0.9	0.5	0.5	0.5

気象庁資料から作成

(参考) 直近10年（平成27年産から令和6年産）における10a当たり収量と標準偏差

	単年値			直近3年平均値			5中3平均値			7中5平均値		
	10a当たり収量	標準偏差	割合	10a当たり収量	標準偏差	割合	10a当たり収量	標準偏差	割合	10a当たり収量	標準偏差	割合
水稻	489	16	3%	488	9	2%	490	5	1%	490	4	1%
小麦	279	43	15%	277	30	11%	272	26	10%	266	23	9%
大豆	114	21	18%	117	13	11%	120	10	8%	122	9	7%
そば	52	10	19%	52	6	12%	52	4	8%	52	3	6%
夏秋きゅうり	3,369	285	8%	3,330	252	8%	3,294	227	7%	3,258	194	6%
夏秋なす	2,636	233	9%	2,640	183	7%	2,635	148	6%	2,638	123	5%
夏秋トマト	3,711	291	8%	3,718	230	6%	3,716	201	5%	3,699	170	5%

10a当たり収量：直近10年の10a当たり収量（又は年産毎の〇年平均値）の10か年平均（都道府県別に算定し平均したもの）

標準偏差：直近10年の10a当たり収量（又は年産毎の〇年平均値）の標準偏差（都道府県別に算定し平均したもの）

割合：10a当たり収量に対する標準偏差の割合

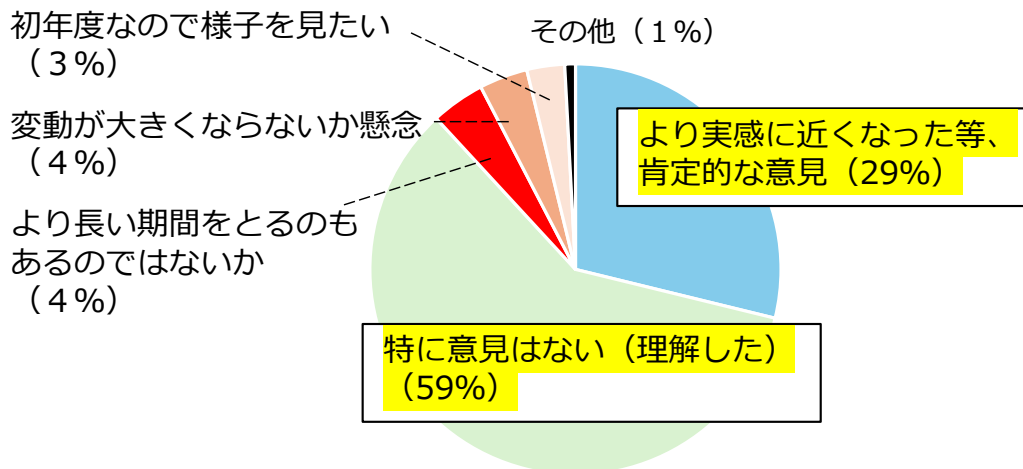
作況単収指数について（生産現場からの聞き取り）

- 令和7年産の調査結果公表時に、各県拠点から水稻収穫量調査の見直しについて関係機関や生産者団体等の生産現場へ周知するとともに、生産現場から作況単収指数について生産現場の感覚との整合性などについて意見を聴取したところ、生産現場から概ね理解を得られている状況。
- A県拠点において、米の需要に応じた生産・販売についての生産者との意見交換の中で、作況単収指数の生産者の感覚とのズレを事例的に確認した結果、令和6年産の作況指数と比較して、令和7年産の作況単収指数は、実際の生産者の感覚とのズレが小さくなっていた。
- 令和8年産も引き続き、作況単収指数に対する生産現場との意見交換を実施予定。

○作況単収指数に対する生産現場の御意見

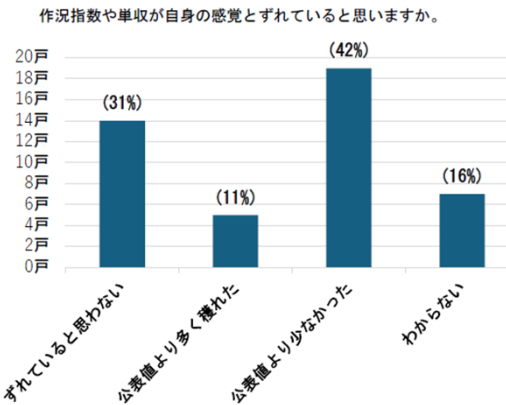
対象者：関係機関や生産者団体等（全国）
 実施時期：令和7年12月（令和7年産水稻の収穫量公表時）
 内容：作況単収指数に対する御意見を聴取（計236件）。
 概要：○9割弱から肯定的な意見や理解が得られた。
 ○残る1割弱の方も、令和7年産は初年度であることから引き続き状況を確認するということでした。

図 作況単収指数（5年中3年平均）への御意見



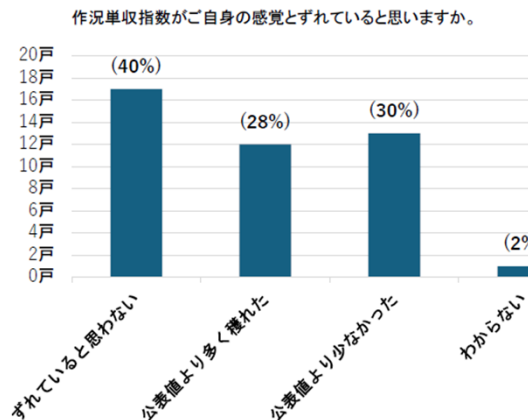
○「作況単収指数」の生産者の感覚とのズレ（A県拠点）

【6年産の作況指数の生産者の感覚とのズレ】



令和6年産の作況指数や10アール当たり収量が現場の生産者の感覚と実際にズレているかどうか聞いたところ、「公表値より少なかった」が42%と一番多かった。一方で、「ずれているとは思わない」は31%。

【7年産の作況単収指数の生産者の感覚とのズレ】



令和7年産からの「作況単収指数」について、実際の感覚とずれているかどうか聞いたところ、「ずれているとは思わない」が40%、「公表値より少なかった」が30%、「公表値より多く穫れた」が28%と、生産者の感覚のずれは減少傾向。

注：聞き取り結果は、事例的な結果であり、統計的な有意性を有しているとは即断できるものではない。